

ニンジン (セリ科)

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
			五寸 タネまき	タネまき							収穫
三寸 春まき									トンネルまき		
			収穫								

〔ミニ種〕 ミニキャロット、ベビーキャロット

栽培ポイント

生育適温が18～22度で、どちらかといえば冷涼な気候を好み、最も作りやすいのは7月まき、11～12月収穫の栽培です。春まき種もありますが、高温になると茎葉も生育が悪く、作りにくくなります。

タネまき後、約70日で根の長さがほぼ決まり、110日目ごろまで肥大をつづけ、収穫期に入ります。順調に生育させるには、本葉2枚目ごろまでと、根の肥大期に当たる本葉4～6枚目ごろ乾燥期の水やりが大きなポイントになります。ただし、生育後半からは、多湿になると根の色を悪くします。

間引きは一度に行わず、本葉6～7枚までに2～3回に分け、そのつど追肥をして肥え切れしないようにします。根の肩が露出すると緑化してしまいますから、土寄せも同時にしておきましょう。

根の耐寒力は強く、翌春まで畑において収穫をつづけられますが、黒田五寸などの冬に強い品種を選び、きちんと土寄せしておく必要があります。

栄養

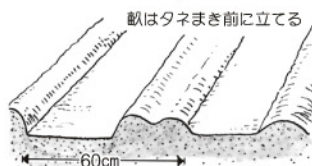
蔗糖、ブドウ糖を多く含み、ビタミンではカロチン、B₂、Cなどを含む栄養価の高い野菜ですが、根部にはビタミンCの分解酵素も同時に含まれています。葉のほうが栄養的にすぐれています。

1 畑の準備

畑にはできるだけ早く、半月以上前に完熟堆肥と苦土石灰を全面にまいて、20cmぐらいの深さに耕しておく。未熟な堆肥は股根の原因になるので用いない。

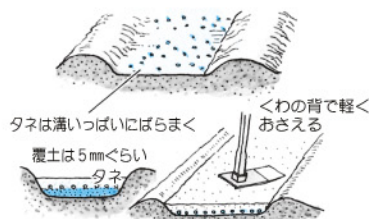
完熟堆肥 バケツ2/3
化成肥料 1握り
(1㎡あたり)

苦土石灰 1握り
(1㎡あたり)



2 タネまき

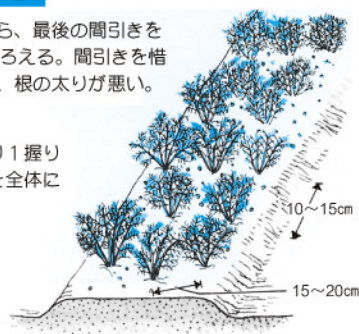
ニンジンのタネは発芽しにくいので、雨のあと土が十分に湿っているときにまく。覆土は薄くし、軽くおさえる。土を厚くかけると発芽が悪い。



4 最後の間引き

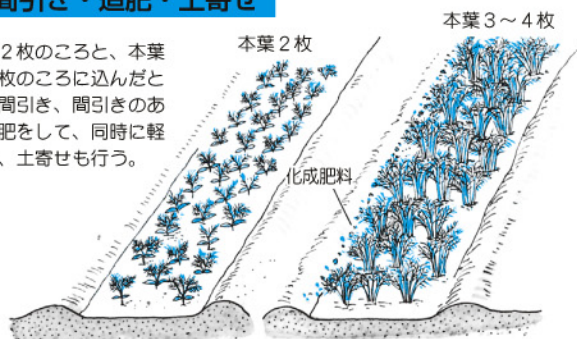
本葉6～7枚になったら、最後の間引きをして、株間を15～20cmそろえる。間引きを惜しんで株間を狭くすると、根の太りが悪い。

間引き後 1㎡あたり 1握り
ぐらいの化成肥料を全体に
ばらまく



3 間引き・追肥・土寄せ

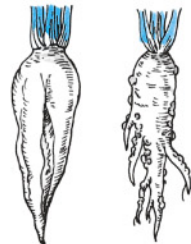
本葉2枚のころと、本葉3～4枚のころに込んだところを間引き、間引きのあとに追肥をして、同時に軽く耕し、土寄せも行う。



5 収穫

発芽後、短根種で100～120日ぐらい、ミニ種では60日ぐらいから収穫できる。太くなったものから順に抜きとり、とり遅れないようにする。

裂根 ネコブセンチュウ



とり遅れたり、土の水分条件の変化によって起こる

根にコブがつき、肥大しないのはネコブセンチュウが寄生したものの。土壌消毒によって予防する

主な病害虫
◆害虫 アブラムシ